



# 日本ブロンテ協会

## 2022年第37回大会プログラム



\*社会状況により開催形態を急遽変更する場合があります。最新情報を協会ホームページにてご確認ください (<http://brontesociety.jp/>)。

**日時** 2022年10月15日(土) 9時50分から17時20分まで

**場所** 東京藝術大学(〒110-8714東京都台東区上野公園12-8)

音楽学部5号館1階109教室

アクセス: JR上野駅(公園口)下車徒歩10分。地下鉄銀座線・日比谷線上野駅下車徒歩15分。千代田線根津駅下車徒歩10分。

**★受付** 9:30~

総合司会 大阪電気通信大学教授 杉村 寛子

**★開会の辞** 9:50

神戸海星女子学院大学名誉教授 惣谷美智子

**★研究発表** 10:00~11:30

司会 京都教育大学准教授 奥村 真紀

1. 腹心の悪友—『ヴィレット』におけるジネヴラ・ファーンショー—

弘前大学准教授 畑中 杏美

司会 滋賀大学名誉教授 岩上はる子

2. *Jane Eyre* におけるブライダル・イメージラリー

立正大学准教授 工藤 紅

3. 「ブロンテ姉妹の小説における木のモチーフについて」

近畿大学准教授 菟原 美和

— 休憩 —

**★会場校挨拶** 12:30~12:40

東京藝術大学音楽学部長 杉本 和寛

**★総会** 12:40~13:10

司会 駒澤大学教授 川崎 明子

**★奨励賞講評** 日本ブロンテ協会奨励賞審査委員長

大東文化大学名誉教授 栗栖美知子

**★会長挨拶**

青山学院大学名誉教授 橋本 清一

**★大会委員長挨拶**

東京藝術大学教授 侘美 真理

**★講演** 13:30~14:50

司会 青山学院大学名誉教授 橋本 清一

「*The Tenant of Wildfell Hall* を読み直す」

元立教大学教授 鮎澤 乗光

**★シンポジウム** 15:00~17:10 「ブロンテ文学と記憶」

司会・発題者 京都大学教授 廣野由美子

発題者 富山大学准教授 小田夕香理

発題者 元鳥取大学准教授 長柄 裕美

**★閉会の辞** 17:10

元近畿大学教授 清水伊津代

\*本年度は懇親会はありません。

## 研究発表

### 1. 「腹心の悪友—『ヴィレット』におけるジネヴラ・ファンショー」

弘前大学准教授 畑中 杏美

本発表は、シャーロット・ブロンテの『ヴィレット』におけるジネヴラ・ファンショーについて考察するものである。ジネヴラは軽薄なコケットであると評されるが、ルーシー・スノウは、ジネヴラと素朴で辛辣な言葉でやりとりしながら親交を深める。地位と財産と美貌とを兼ね備えた女性しか眼中にないグレームは、ジネヴラを完璧な女性だと思い込み崇拜するが、その思い込みのためにジネヴラの好意を得ることができない。夫に寄りそう妻の役割を自ら引き受けようとするポーリーナと共にいるときは影に徹するルーシーであるが、ジネヴラと共に喜劇の舞台に立つときはルーシーにも光が当たる。恋物語のヒロインになる資格を持ちながらも、中産階級的な堅実さや忍耐の美德には興味がないと言い切り、イギリス人男性の理想の女性像を冷笑するジネヴラと、ジネヴラについて書くときのルーシーの心の動きに注目し、考察を試みたい。

### 2. 「Jane Eyreにおけるブライダル・イメージリー」

立正大学准教授 工藤 紅

18世紀後半から19世紀初頭にかけて巻き起こったゴシック小説ブームは、19世紀小説の中にも強く影響を及ぼしている。Brontë姉妹は父Patrickの影響で*Blackwood's Magazine*を読んでいたが、そこには多くのゴシック作品が掲載されていた。彼女たちの作品にもその影響が見られ、Charlotte Brontëの『ジェイン・エア』（1847）でもゴシック小説的要素が多くある場面でおそらく意識的に使われている。その一つがブライダル・イメージリーである。「花嫁」をモチーフとしたゴシック作品は多く存在し、Charlotteもそれが及ぼす効果を利用しているのである。白いウェディング・ドレスが慣例となったヴィクトリア時代には、その婚礼衣装が経済的象徴ともなっていた。「結婚」がストーリーの重要な鍵となっている本作品におけるブライダル・イメージリーを再検討することで、登場人物たちの人間関係、当時の女性たちの葛藤や役割を、歴史的、フェミニズム的観点から考察する。

### 3. 「ブロンテ姉妹の小説における木のモチーフについて」

近畿大学准教授 菟原 美和

博物学が流行した19世紀に書かれたブロンテ姉妹の小説には、それを反映するかのように様々な植物が描かれているが、本発表ではその中でも木に着目し、シャーロット、エミリ、アンのそれぞれの小説に出てくる木の特徴について考えてみたい。三姉妹のそれぞれの小説に様々な木が登場するものの、アンの小説では、木よりもサクラソウやクリスマスローズなどの花の方が明らかに印象的に描かれている。一方、シャーロットとエミリの小説では、木が小説の中で印象的に描かれ、特定の木が象徴的な意味合いを持っているように思われる場面がある。『ジェイン・エア』と『嵐が丘』においては、いずれの小説にも木が裂ける場面が登場するが、シャーロットとエミリの小説にみられるこのような共通点にも目を向け、当時流行していた花言葉との関連も考え合わせながら、それぞれの木が象徴している意味についても考察をしたい。

## シンポジウム

### 「ブロンテ文学と記憶」

「記憶」が、古来、文学を構成する普遍的要素であることは言うまでもないが、マルセル・ブルーストの『失われた時を求めて』や、カズオ・イシグロの小説群をはじめ、20～21世紀の現代文学においては、「記憶」自体が文学のテーマとして前景化している作品も少なくない。では、19世紀のブロンテ文学においては、「記憶」はどのように扱われているだろうか。本シンポジウムでは、まず廣野がシャーロットの『ジェイン・エア』を、小田氏がエミリーの『嵐が丘』を取り上げて、ブロンテ文学における「記憶」の意味や役割について考察する。また、イシグロ研究者、長柄氏をお招きし、イシグロがシャーロットからどのような影響を受けたかという観点から、両作家の比較考察を行っていただく。以上の三つの方向から、ブロンテに関する私たち自身の「記憶」にも揺さぶりをかけ、いま一度作品を読み直したい。

### 『ジェイン・エア』における「記憶」の役割

京都大学教授 廣野由美子

シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』では、物語を動かす原動力として、語り手ジェインの「記憶」が重要な役割を果たしている。このことを立証するために、本発表では、テキストに書き込まれた「記憶」に関わる要素を拾い上げ、それらが作品全体のなかでどのような意味の広がりを持つかについて考察する。第一に、物語では何度か舞台が移動するが、それぞれの移動のさいに「記憶」が果たしている役割を検討する。第二に、ジェインが何かを追体験するさい——たとえば、ゲイツヘッドに戻ってリード夫人に再会したり、モートンで学校教師生活を再開したりするさいなどに——記憶の反復がいかに関わるかの認識や行動に影響を及ぼしているかを分析する。これらの考察をとおして、シャーロット・ブロンテが、「記憶」を文学的要素として用いていることを明らかにするとともに、彼女の文学の先見性に新たな光を当てたい。

### 『嵐が丘』を「記憶」から読む——キャサリンとヒースクリフを中心に

富山大学准教授 小田夕香理

ネリーからロックウッドへ、そしてロックウッドから読者へと語られる『嵐が丘』は、語り手たちの記憶を介して成立している。そして、そのようにして成立した作品において展開されるキャサリンとヒースクリフの悲劇は、「記憶」をめぐる悲劇でもあると言えるのではないかと。『嵐が丘』において、その語り手の構造からキャサリンとヒースクリフの生きざまにまで関係する、重要なテーマであると考えられよう。本発表では、主にキャサリンとヒースクリフに焦点を置き、『嵐が丘』における「記憶」について考察する。二人は互いのことをどのように記憶するのか。二人の関係において「記憶」とは何なのか。二人の人生に「記憶」はどのように関わるのか。キャサリンとヒースクリフの二人を「記憶」という観点から捉えなおすとともに、『嵐が丘』において「記憶」が何を意味するのかについても検討することにした。

### カズオ・イシグロの語りにもみるシャーロット・ブロンテの「名残り」

元鳥取大学准教授 長柄 裕美

カズオ・イシグロが、影響を受けた作家の一人としてシャーロット・ブロンテを挙げることはよく知られている。本発表では、特に言及の多い『ジェイン・エア』と『ヴィレット』の二作品を取り上げ、同じく一人称小説であるイシグロの初期作品に与えた影響について検討する。イシグロは、ジェインとロチェスターの会話シーンに見られる〈秘めた感情を相手に暴かせる手法〉や、ルーシー・スノウの語りに見られる〈重要な情報を意図的に隠蔽する手法〉を巧みに援用しつつ、『遠い山なみの光』及び『日の名残り』の語り手たちの葛藤に満ちた「記憶」を効果的に表現した。イシグロ自身のインタビュー中の言説や学生時代に提出されたエッセイを参照しながら、ブロンテ作品に対するイシグロ独自の読みと着眼点を明らかにするとともに、それが「記憶」を巡るイシグロ初期作品の核心的テーマへといかに関わり展開していったかを考察したい。

## 東京藝術大学 音楽学部 5号館 1階109教室

【アクセスは下記の地図、もしくは東京藝術大学「来校案内」のページ [https://www.geidai.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/ueno\\_map\\_dl\\_2022.pdf](https://www.geidai.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/ueno_map_dl_2022.pdf) をご参照ください。】

### 入構方法

音楽学部正門に入り、守衛所にて入退出簿に記載された氏名のチェックを受けてください。

(一時的な外出も含め、入構・出構の都度チェックを受ける必要があります。)

※当日体調がすぐれない場合は入構をお控えください。以下の症状がある場合はご入構いただけません。

①発熱(目安:体温37.5度以上)又は平熱よりおおむね1度以上高い体温の者 ②風邪等の症状がある者

**構内・会場での遵守事項** (東京藝大COVID-19行動指針: <https://www.geidai.ac.jp/news/2020040987351.html#1>)

- ・不織布マスクを常時正しく着用してください。また、こまめな手洗い、手指消毒の励行をお願いいたします。
- ・食事中などマスクを着用することができないときは、会話を極力慎みください。
- ・大会に関係のない施設への立ち寄りをご遠慮ください。

### その他

- ・当日構内の食堂は営業していません。各自昼食をご持参いただくことをお勧めします。
- ・控え室・休憩室として5号館2階212と213教室をご用意しております。

**会場・アクセス地図** 音楽学部正門 → ②1音楽学部5号館 → 1階 109教室(5-109)



日本ブロンテ協会事務局

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1 駒澤大学文学部 川崎明子研究室内

e-mail: [brontesocietyjapan@gmail.com](mailto:brontesocietyjapan@gmail.com)